

サステナビリティレポート  
**SUSTAINABILITY REPORT**  
**2023**



# CONTENTS

## 化学品物流をリードするNRSグループ

社長メッセージ／企業理念	3
NRSグループのビジョン	4
沿革	5
NRSグループの目指すサステナビリティ	
・ 持続可能な社会創出に対する考え方	6
・ NRSグループのサステナビリティロードマップ	6
・ SDGs達成に向けたNRSグループの重要課題	7
・ サステナビリティ推進体制	8
・ サステナビリティ推進に係る社内活動	8
・ 活動トピックス	9

## 環境

カーボンニュートラルの実現を目指して	10
CO <sub>2</sub> 排出削減への取り組み	10
リターナブル容器による廃棄物の削減	11

## 社会：安全品質活動

安全で高品質な物流を提供するために	12
顧客に満足されるサービスを目指して	15
高品質物流への取り組み	16

## 社会：人財

多様性の尊重（ダイバーシティ）	17
働きやすい職場づくり（ディーセントワーク）	19
健康経営の推進	20
教育研修制度の充実	20

## 社会：社会貢献

## ガバナンス

コーポレートガバナンス体制図	22
リスクマネジメント	23
コンプライアンスの徹底	24

## ESGデータ

## 会社概要

会社名：NRS株式会社  
代表者：代表取締役社長 戸木 眞吾  
所在地：〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-7-1  
興和一橋ビル8階  
設立：1946年12月  
事業内容  
：倉庫、通関、国際輸送、貨物自動車  
運送、貨物自動車利用運送、鉄道貨  
物利用運送、海上貨物利用運送、航  
空貨物利用運送、輸送容器のリース・  
レンタル・販売、3PL（サード・  
パーティー・ロジスティクス  
サービス）、物流情報システムの開  
発等  
資本金：20億円  
URL：<https://www.nrsgr.com>

## 編集方針

このレポートは、ステークホルダーの皆さまに当社のサステナビリティへの取り組みをわかりやすくお伝えすることを目的に編集しました。構成は、NRSグループについて、グループのサステナビリティへの取り組みについて、環境・社会・ガバナンスへのこれまでの取り組みについてとESGデータとなります。

## 報告対象期間

・ 2023年度（2022年10月1日から2023年9月30日）ただし、関連性のある内容については一部この期間外の情報も報告しています。

## 報告対象組織

NRS株式会社およびグループ会社

## 発行時期

2023年12月

## サステナビリティレポートに関するお問い合わせ先

NRS株式会社 サステナビリティ推進室  
TEL：03-5281-8145  
Email：[Sustainability@nrsgr.com](mailto:Sustainability@nrsgr.com)



NRS株式会社  
代表取締役社長  
戸木 眞吾



我々の生活がより豊かに・より便利に・より機能的に発展するに欠かせない化学品、NRSが持つ物流機能はグローバルにおいて化学品の重要なサプライチェーンの一角を支えています。「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」の企業理念に基づき、「総合力で化学品物流をリードする」の経営ビジョンをあげ、「地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS」の存在意義を高めるために、絶え間なく進化し、より高付加価値なサービスを追求して企業価値を高めてまいります。安全と遵法を基本に据えて、顧客・それにかかわるすべてのステークホルダーから信頼され社会の持続的成長を支える事業を繋いでいきます。

### 企業理念 「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」

物流は「製造」と「消費」をつなぐきわめて重要な役割を持ち、産業の基幹をなしています。化学製品は自動車、家電、IT、医療、食品、エネルギー等、人類社会の豊かな生活に不可欠なものです。一方でその原料の化学品は、「燃える」「爆発する」「毒性が強い」など非常に危険な性質を持っています。この化学品の物流にもっとも重要なもの、それは「安全」、そして「法の遵守」です。安全と法令順守、このことを基本に据えて、高品質・高効率な物流サービスを提供することが化学品の総合物流事業者であるNRSグループの使命であります。NRSグループの従業員は日ごろから自己研鑽に努め、自立的、自発的な行動のもと、顧客の要求に的確、且つ迅速にこたえられる高い品質と規模を備えた会社をつくりあげる。そのことによって顧客、取引先と社会に貢献し、広く支持されることを目指したいと思えます。

従業員が誇りをもって仕事をする。そして物心両面で幸せを感じられる会社。まさしく「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という創業の理念に到達できると信じるものです。



# NRSグループのビジョン

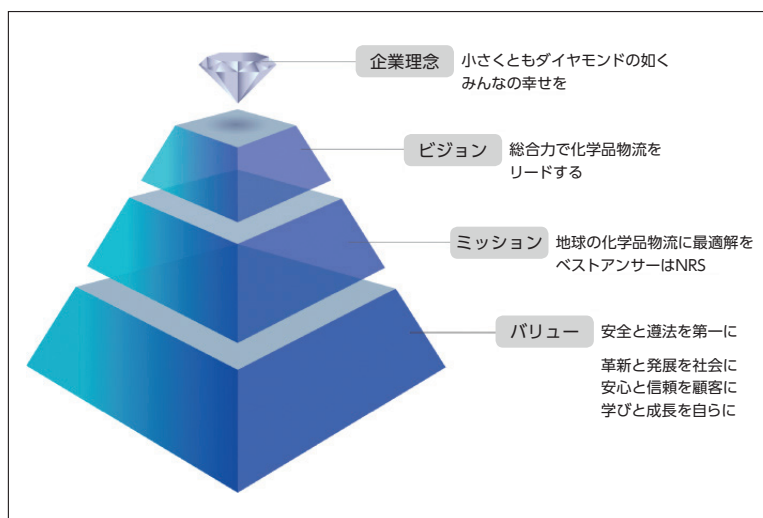
## NRSグループ理念体系の明確化

当社は企業理念に基づき企業活動を展開しておりますが、ビジョン・ミッション・バリューとの結び付きをさらに明確化、体系図に集約いたしました。

「ビジョン」は企業理念に基づく経営目標・将来のあるべき姿を、「ミッション」は当社の存在意義として何をすべきか、何を成し遂げるべきか、社会へどのような価値を提供するのかをそして「バリュー」は、これらを実現するための行動方針・指針をそれぞれ示したものです。

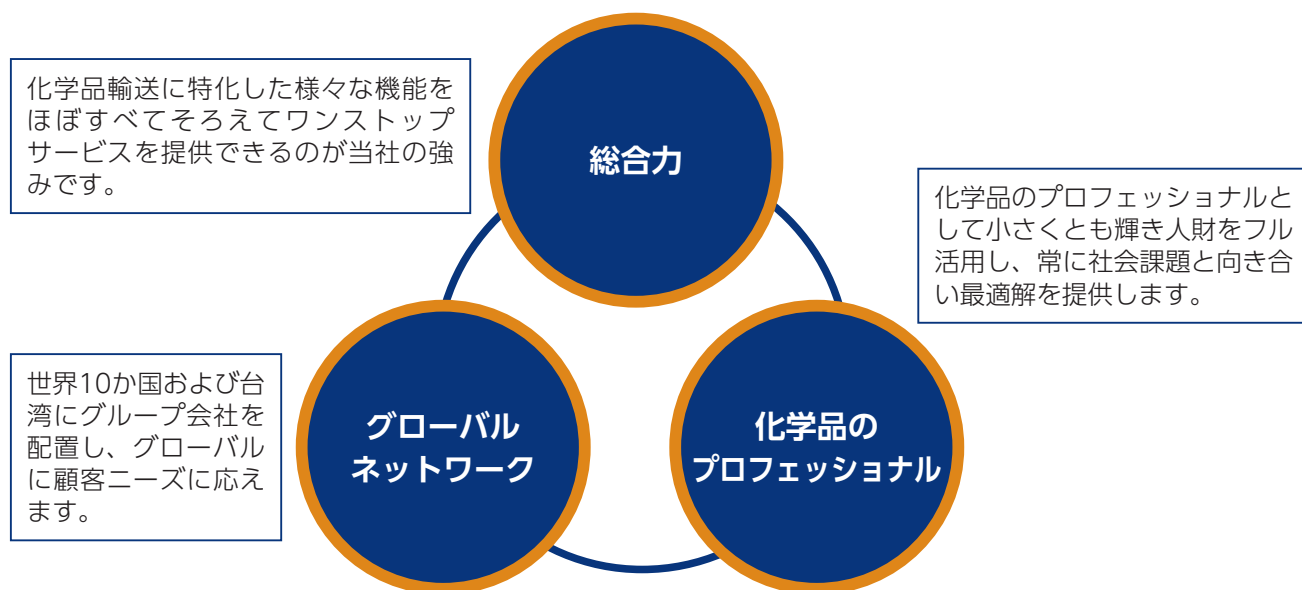
これらを明確にすることで、より効率的な組織運営およびブランドイメージの醸成を通じてサステナビリティを実現してまいります。

### NRSグループ理念体系



## NRSグループの強み

新型コロナウイルス感染拡大、ウクライナ情勢を機に、サプライチェーンの重要性が再認識されています。当社グループでは、安全と法の遵守を基本に据えて、「総合力」、「グローバルネットワーク」、「化学品のプロフェッショナル」の強みを今後も強化し、高付加価値なサービスを追求します。



1940~	<p><b>1946年 戦災タンク貨車の復旧による石油化学品の輸送販売を目的として「日本陸運産業株式会社」設立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日陸輸送株式会社、日陸倉庫株式会社設立</li> </ul> <p>京葉工業地帯の石油コンビナートに大規模な危険物倉庫を開設。タンクローリー輸送事業、関西地区のタンクヤードとともに化学品業界の発展に貢献</p>
1980~	<p><b>安全で高効率なISOタンクコンテナの国内運用の道を開く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■高石ケミカル株式会社設立。通関事業開始。</li> <li>■タンクコンテナ事業開始、海上タンクコンテナ事業部門開設</li> </ul> <p>当時日本で国内運用が認められていなかった国際輸送用ISOタンクコンテナに注目。最大積載量24tに対応した車両を車両メーカーと共同で開発。消防関係規則の緩和を当時の政府に強く働きかけ、輸出入貨物限定で24t ISOタンクコンテナの国内通行許可を取得。さらに働きかけを続け、1999年には上記の最大積載量が30.48tへ緩和、2004年には"輸出入貨物限定"条件が撤廃され、効率的で省資源な物流に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日本での輸出入の増加に伴ってトレーラーの横転事故が全国で多発。車両メーカーに共同開発を持ちかけ「横転抑止装置付海上タンクコンテナ積載専用シャーシ」を開発し、翌年当社の全事業所に配備した。</li> <li>■米国・ニューヨークに現地法人NRS America Inc.設立 [現NRS LOGISTICS AMERICA INC.]</li> <li>■英国インターフロー（タンクコンテナシステム）社を買収し、NVO事業を開始 [現NRSオーシャンロジスティクスリミテッド]</li> <li>■IBCのレンタル・販売開始</li> <li>■シンガポールに現地法人NRS Singapore Pte. Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.]</li> </ul>
2000~	<p><b>中国交通部の要請で本格的な危険物倉庫を開設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■中国・上海に合併会社上海日陸外聯発物流有限公司設立</li> <li>■無機シアン化合物またはフッ化水素若しくはこれを含有する製剤の運搬については、輸送数量が10kl以下に制限されていたが、当社が事務局を務める日本危険物コンテナ協会を通じて、長年にわたり熱心に関係省庁に働きかけたことにより、IMO基準にISOタンクコンテナであれば容量の制限なく運搬が可能となり、当社が最初に無水フッ化水素の国内輸送を手がけた。</li> <li>■中国・上海に保税危険物倉庫開設</li> </ul> <p>当時、中国の危険物倉庫は小屋のような建物に消火器がある程度のものであった。中国交通部が日本へ危険物物流の視察に来日した際に対応していた縁で、上海での危険物倉庫運営の要請があり、上海港に保税危険物倉庫を開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■航空貨物輸送事業部門開設</li> </ul> <p><b>2008年 社名を「株式会社日陸」に変更</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■医薬品、医薬部外品、化粧品の製造業（包装・表示・保管）許可取得</li> <li>■IATA貨物代理店認可取得</li> <li>■IT点呼の考案</li> </ul> <p>乗務員の健康管理と安全確保の基盤となる点呼は、深夜、早朝に行われることが多く、運輸事業者の間では大きな経済的、人的負担となっていた。そこでITを活用したIT点呼を考案し、国土交通省で認可を得て、安全運行と業務改善の向上に繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■東京税関より認定通関業者（AEO制度*）認定を国内第1号として取得</li> <li>■環境ISO14001認証取得</li> </ul>
2010~	<p><b>日本で培った安全品質物流のノウハウを展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■韓国・ソウルに現地法人NRS LOGISTICS KOREA CORPORATION設立 [現NRS LOGISTICS KOREA CO., LTD.]</li> <li>■タイ国・バンコクに現地法人NRS Logistics (Thailand) Co., Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.]</li> <li>■台湾・台北市に台湾支店開設</li> <li>■NRS Logistics Vietnam Co., Ltd.設立</li> <li>■東京税関より特定保税承認者（AEO制度*）の承認取得</li> <li>■ベトナムに現地法人NRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.設立</li> </ul> <p>同国初 日本品質の危険物倉庫を開設へ</p>
2020~	<p><b>2022年 社名を「NRS株式会社」に変更</b></p> <p><b>2023年 熊本支店開設</b></p>



輸送事業



倉庫事業



タンクヤード事業



コンテナ事業



フォワーディング事業



IT点呼の様子



ベトナム初 日本品質の危険物倉庫

\* AEO制度：貨物のセキュリティ管理と法令遵守（コンプライアンス）の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## 持続可能な社会創出（サステナビリティ）に対する考え方

NRSグループは化学品・危険物物流のリーディングカンパニーとして、地域や環境への負荷を軽減する事業活動を徹底しています。

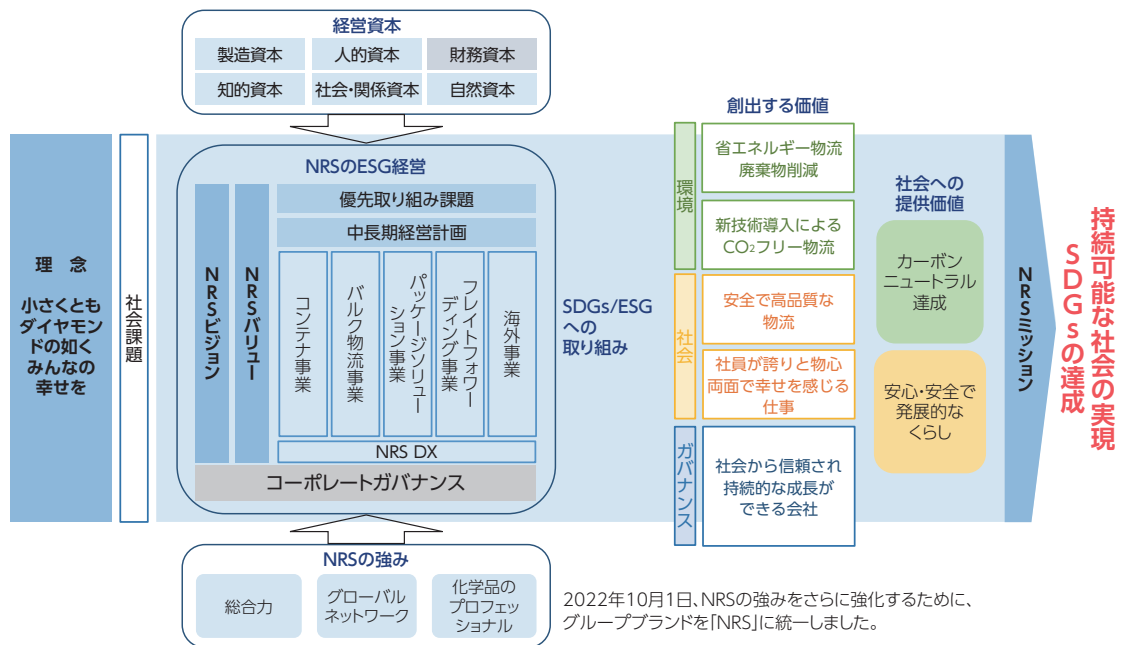
これからもSDGs/ESGに配慮した企業活動を継続し、持続可能な社会の創出に貢献します。



## NRSグループのサステナビリティロードマップ

企業理念を頂点とするグループ理念体系を明確にしました。

企業理念およびグループのビジョン・ミッション・バリューをグループ全従業員が自覚し、当社の強みと経営資本をフル活用し、持続可能な社会の実現へ邁進します。



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## SDGs達成（2030年）に向けたNRSグループの重要課題（マテリアリティ）



### CO<sub>2</sub>排出の削減

変動要因はGHG（主にCO<sub>2</sub>）であり、その主要発生源は化石燃料と電力です。燃料については脱化石系への切り替えを使命とし、水素・EV・バイオマス等への代替を進めます。電力については太陽光発電の取り込みや電力購入先の再生可能系への転換を計画的に進めます。また、省エネルギー・省資源化への取り組みは日常作業として定着に努めます。

### コンプライアンスの徹底

関係法令の遵守はもとより、社内規程や作業マニュアルに至るすべてのルールの遵守を徹底しています。コンプライアンス委員会を通じて法令の遵守状況を確認し、管理監督および必要に応じた是正を進めています。

### 多様性の尊重と働きやすい職場づくり

少子高齢化の中で優秀な人財を確保・育成し、成長し続ける企業であるために、外国籍人財の積極的な採用や定年制度の延長など多様性の尊重（ダイバーシティ）を推進しています。また、組織の活力である社員が十分に能力を発揮できるように、ワークライフバランスを重視した制度の拡充や、多彩な教育研修の計画と実施を進め、安全で働きがいのある職場づくり（ディセントワーク）に取り組んでいます。

### 安全で高品質な物流の提供

化学品は社会の発展に大きく寄与します。しかし、大気・水質・土壌等環境への悪影響や大規模災害に繋がるリスクの考慮が欠かせず、取り扱いには専門的な知識・技能や経験が必要となります。NRSグループでは、化学品物流のプロフェッショナルとして安全で高品質な物流を提供するために積極的な人財育成、物流荷役設備の整備・予防保全、DXのさらなる推進に取り組んでいます。

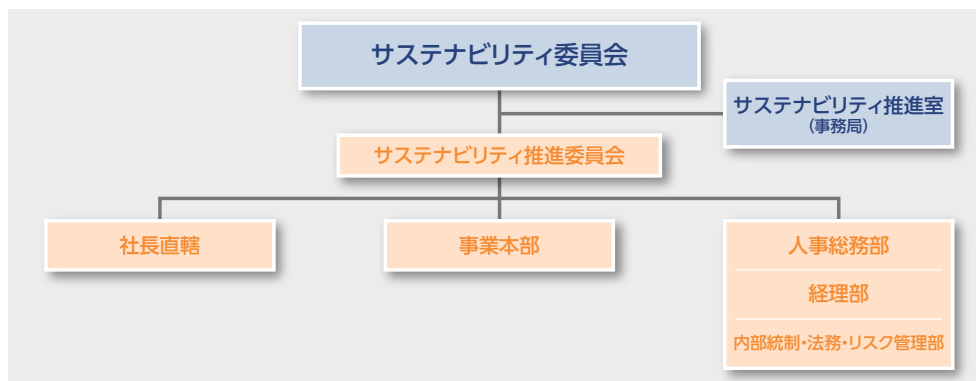


# NRSグループの目指すサステナビリティ

## サステナビリティ推進体制

NRSグループは、事業を通じて環境・社会課題解決に貢献しながら持続的な成長を達成すべく、代表取締役社長を委員長としたサステナビリティ委員会で重要方針を策定し、その下部組織であるサステナビリティ推進委員会の活動を通しESG推進に積極的に取り組んでおります。

### サステナビリティ推進体制図



## サステナビリティ推進に係る社内活動

2022年10月	社名変更 : グループ総合力のさらなる強化 組織を改正し、グループ経営・DX推進・コンプライアンスの強化をより確実に実現する機能を明確化 : 「海外戦略事業部」「デジタルデザイン統括部」「内部統制・法務・リスク管理部」を創設 <b>三井住友銀行より「SDGs推進融資」実行証を取得</b> ▶次ページ 活動トピックス1
2022年12月	<b>ビジョン・ミッション・バリューの策定</b>
新年度より	社長を委員長とするサステナビリティ委員会の開催頻度を年4回(四半期毎)に拡大。同推進委員会との連携も強化し、サステナビリティ関連事項の迅速公正明確な社内浸透を強化。 ・1回: 22年10月19日 前年活動実績と新年度の活動計画 ・2回: 23年1月17日 サステナビリティレポート製作状況報告 CN方針として2030年目標を電力由来のCO <sub>2</sub> 排出ゼロ化 等決議 ・3回: 23年5月17日 上期活動状況・下期計画および24年計画Draftの報告 ・4回: 23年8月23日 CSR調査対応状況・購買調達機能部門の設置・CN方針 等
2022年12月	サステナビリティレポート創刊。環境・社会・ガバナンスへの取り組みを整理し、グループ全従業員をはじめ広くステークホルダーとも共有する。さらに、グループのビジョン・ミッション実現への課題も明確化し、これらを解決することで持続可能な社会創出へも貢献。
2023年6月	<b>NRSグループ理念体系を明確化</b> 持続可能な社会創出に向けて、当社の存在意義やグループ全従業員が目指す指針を明確化し、ステークホルダーとも共有を図る。
2023年7月	<b>NRSグループDX戦略策定</b>
2023年8月	サステナビリティ活動の外部評価継続 (ecovadis評価へ対応)
2023年9月	リスク・コンプライアンス規程として刷新
2023年10月	<b>贈収賄防止基本方針策定</b> <b>「NRSグループ 調達基本方針」策定</b> ▶次ページ 活動トピックス2 その他・カーボンニュートラル実現へのロードマップ討議・2030年目標の設定 ・エンゲージメント調査(2年目)から特に女性活躍に向けての課題抽出





# NRSグループの目指すサステナビリティ

## 活動トピックス1：「SDGs推進融資」の実行証を取得

三井住友銀行様より、当社の様々な持続可能な取り組みに対しSDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると評価され、「SDGs推進融資」の実行証を受けました（2022年10月）。

本融資は、株式会社三井住友銀行様と株式会社日本総合研究所様が、企業のSDGsに関する現状の取り組み状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道筋（ロジック）を分析し、SDGsの取り組み推進に向けたアドバイス等を提供されるものです。

以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 運送業を通じたカーボンニュートラルへの貢献、廃棄物の削減  
：関係するSDGsの目標番号 7・12・13
- ② 安全な労働環境の促進、従業員の働きがいの向上  
：関係するSDGsの目標番号 8



NRSグループは、今後もSDGsの目標達成に向けた取り組みに邁進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## 活動トピックス2：「NRSグループ 調達基本方針」策定

当社では、これまでも購買管理規程に基づく購買・調達活動として、公正な取引・取引先様の評価と選定・社内承認取得・納期管理・支払い処理等々を進めております。今般、サプライチェーン全体を通してのサステナブルな調達への要求が高まる中、公正な取引に際し資源・環境の保護、人権、安全等への影響を含めた「NRSグループ 調達基本方針」を明確にいたしました。

本方針に則り、環境面・人権面を含むガバナンス・コンプライアンスの向上を通じて、ステークホルダーの皆さまとの健全で良好な関係をさらに強化してまいります。

### 「NRSグループ 調達基本方針」

「NRSグループ 企業倫理綱領」の考えに基づき、法を遵守し、倫理観を持った誠実な購買活動を行うことを宣言します。

### 方針で定める内容

- 公正・公平な取引先の選定・契約と、国内外の企業に対し公平な取引の機会を提供すること
- 購買取引にあたり、関連法律を遵守し、取引先の知り得た機密情報を守秘すること
- 持続的発展可能な社会の実現に貢献するため、購買取引にあたり資源・環境の保護、人権、安全に配慮し、企業の社会的責任を果たすこと



# 環境

物流事業における環境負荷は避けられません。その事実を深く厳しく受け止め、いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

## 環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務及びその付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO<sub>2</sub>の排出削減等、次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。

(営業所、グループ会社が行う環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

1. 大気汚染防止、水質汚濁防止及び地球温暖化防止対策
2. 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

## ■ カーボンニュートラルの実現を目指して

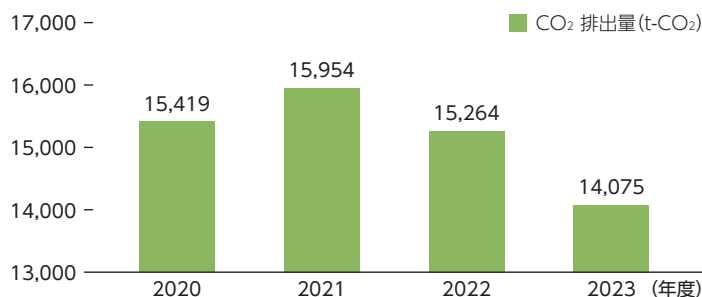
NRSでは政府方針を前倒し、2046年創立100周年の節目にカーボンニュートラル達成を目指しています。

当面の目標である2030年電力の脱炭素化完了に向け、本年度は国内5拠点で太陽光発電を開始、および電力契約の見直し（グリーン電力導入）を同6拠点で完了しました。

また、現状可視化推進策としてスコープ管理へ着手、計画的な脱炭素化を今後も継続します。

## ■ CO<sub>2</sub>排出削減への取り組み

NRSグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量を把握しています。2023年度は、2022年度比▲4%改善の目標に対して7.6%削減することができました。今後もカーボンニュートラルを達成できるよう取り組んでまいります。



### 2023年度環境目標

：CO<sub>2</sub>排出量2022年度比▲4%改善

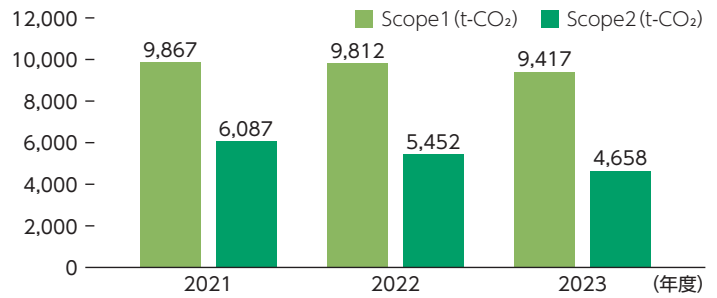
実績：▲7.6%



## Scope別CO<sub>2</sub>排出量

NRSでは2046年のカーボンニュートラルに向け、2019年よりScope 1、Scope 2の集計を行っております。直近3年間でCO<sub>2</sub>排出量は確実に下がっており、これからもカーボンニュートラルに向け様々な施策を行ってまいります。

2023年度 Scope別CO<sub>2</sub>排出量  
 Scope 1 9,417 t-CO<sub>2</sub>  
 Scope 2 4,658 t-CO<sub>2</sub>



## 省エネ・再エネ化推進の具体事例は下記の通りです

- 1) エコドライブの推進 : 国内トラック業10拠点+倉庫業2拠点、でグリーン経営認証取得
- 2) 照明LED化 : 国内倉庫全拠点に設置
- 3) グリーン電力導入 : 国内事業所6拠点まで完了
- 4) 太陽光発電設置 : 国内物流センター中心に5拠点に設置、発電中
- 5) モーダルシフト : 令和4年度「モーダルシフト優良事業者表彰」受賞



土気流通センターに設置した太陽光パネル

## リターナブル容器による廃棄物の削減

ISOタンクコンテナ、IBC等のリターナブル容器は、洗浄して繰り返し利用可能な環境にやさしい運搬容器です。例えば、ドラム缶輸送からISOタンクコンテナ輸送に切り替えた場合、約80本分のドラム缶と、その輸送に関わるパレット等の副資材の廃棄物低減に寄与することができます。

### ●海上コンテナ内で2段積み可能なIBC容器の開発

当社は現在海上コンテナに2段積み可能なIBC容器を開発しております。これまでのIBC容器では海上コンテナ内では段積みができず、空間の有効活用ができませんでした。今回開発したIBC容器では高さを低くすることで、海上コンテナ内で段積みを可能にし、ラック倉庫にも保管が可能になりました。これにより輸送効率の最適化、副資材の廃棄物低減、倉庫内での保管効率の最適化が図れます。

### ●40ft ISOタンクの導入

当社は東南アジア向けに40ft ISOタンクを導入いたしました。これまでタンク貨車で輸送していた品物をこの40ft ISOタンクで輸送することで輸送回数を減らすことができ、輸送の効率化、CO<sub>2</sub>の排出量を削減することが可能です。当社は今後も様々な種類のリターナブル容器を導入することで環境負荷低減、廃棄物の削減を行ってまいります。



### ●フロンの回収・リサイクルへ

川崎ConTechでフロン残ガスの回収処理を開始。回収品はリサイクルするスキームで、従来の燃料廃棄処理等に比べ省エネ省資源を実現、環境負荷軽減へ貢献する取り組みです。

## 環境汚染の防止

大気・水質の維持・改善を確実に実行しています。環境値管理の徹底で環境トラブル発生ゼロを継続しています。また、環境ISO認証の取得範囲を広げています。本年度は神戸および周南両ConTechで新たに認定取得しました。さらに物流センターでも認定取得へ対応中です。



# 社会： 安全品質活動



危険物を取り扱うNRSグループにとって、「安全」は事業の根幹であり社会への責務です。社員一人ひとりが危険を予知して事故を防げるよう、計画的かつ徹底した安全品質管理を行っています。

## 安全方針

### 事故のない会社

### 規律正しい社員の伝統的信用を引き継ぐ

## 安全で高品質な物流を提供するために

### 安全推進委員会

社長を委員長とし、安全目標およびNRSグループマネジメントプログラムを策定します。委員会は年2回開催し、PDCAを回しています。

#### 2023年度安全目標

目標	実績
1. 環境事故ゼロ	達成（ゼロ）
2. 重大事故ゼロ	達成（ゼロ）
3. A級事故 10件以下	達成（4件）

### 化学物質管理の徹底

化学物質による事故防止のためリスクアセスメント管理規則を制定し、新規取扱時や変更時のリスクマネジメントを徹底しています。

### 安全大会

2023年5月20日に開催。

バルク物流事業部およびコンテナ事業部系現場から国内11拠点が日ごろの成果を発表しました。製品納入先での安全配慮事項、構内整備作業の安全対策、事故想定訓練等が紹介されました。



写真は当日の参加者一同



## 社長安全巡視 2023年度実施状況

NRSグループ国内26営業所を各地区に分け、年1回実施しています。2023年度は、新潟地区、中部地区、九州・周南地区で実施しました。社長をはじめ関係部署責任者および各管理者が営業所の倉庫構内・車両車庫・事務所等を巡視し、危険箇所の抽出および問題点の話し合い、業務改善に繋がっています。また、巡視終了後、安全会議を開き意見交換を行うことで、さらなる安全活動の強化に役立っています。



## 重大事故防止強化月間

過去の教訓を風化させないことを目的に、重大事故が発生した月間を対象に「強化月間」を毎年設定し、ポスターによる啓蒙、事故の発生状況、原因および対策について再学習しています。対策の維持状況の確認、類似作業の洗い出しなど、全社員が実施し、類似事故の再発防止に努めております。

1月	転落事故防止
2月	酸欠事故防止
5月	横転事故防止
7月	圧力・被液・荷役機器事故防止
8月	誤出荷・誤納入事故防止

## H (ヒヤリ) H (ハット) K (気がかり) カードの活用

ヒヤリ・ハット・気がかりな事例を記録に残し、社内へ水平展開することで事故削減へ繋がっています。

また、2023年度より月間HHK賞を制定し、事業部毎に表彰することでこれまでよりHHKカードを提出することの意識を向上させております。

提出枚数

2020年度	381枚	2021年度	412枚
2022年度	454枚	2023年度	1,001枚

## 想定訓練実施状況

2023年9月1日から9月6日にかけて倉庫・ConTechにて大地震を想定した防災訓練を行いました。

避難訓練だけでなく放水訓練も行い、いざという時にしっかりと行動できるように真剣に取り組んでいます。



ベトナム倉庫でも同じように放水訓練を行っております。



新設時の倉庫全景

## 安全および健康推進に関する外部表彰 2022年10月～2023年9月

年月	表彰名	表彰元	受賞対象
2022年12月	モーダルシフト取り組み優良事業者賞	(社)日本物流団体連合会	NRS株式会社
2023年5月	理事長表彰	新潟県危険物安全協会	新潟事業所
	パートナーシップ協議会総会表彰	S/パートナーシップ協議会	名古屋ケミポート
2023年6月	物流部長賞	M株式会社様	北九州事業所
2023年7月	安全優良賞	M株式会社様	千葉事業所
	健康推進優良事業所（金賞）	石油製品販売健康保険組合	NRS株式会社

## 顧客に満足されるサービスを目指して

品質方針：

「顧客が満足する物流の品質・プランを提供し社会に貢献する」

### 誤出荷削減への取り組み

NRSグループでは、取扱貨物100万件当たり何件誤出荷が発生しているかという誤出荷率（ppm）を品質目標として、誤出荷削減に取り組んでいます。

### 安全規則の徹底と教育指導

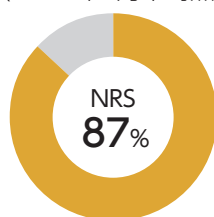
危険物物流に必要な専門的知識の維持・習得を目的に当社では、毎年全社員を対象に勉強会を開催しています。内容は危険物関係法令・IMDG CODE（国連機関で定めている危険物輸送規制）、AEO制度等です。また、部門毎に専門的な研修も行い、安全で高品質な物流サービス提供に努めています。

### 危険物取扱者の資格取得奨励

当社では間接部門の社員にも資格取得を促しています。

危険物取扱者乙種4類（甲種含む）取得率

(2023年9月末時点)



NRS 87%



NRS物流 100%



## 高品質物流への取り組み

### 教育・研修から、地球の化学品物流に最適解の提供を目指し当社の取り組みを紹介

#### ■九州の化学品物流にも最適解を提供します

熊本支店は8月1日より一部貨物受入を開始、12月に本格機能を整備しシリコンアイランド九州内、特に活発な企業進出が続く熊本での半導体産業への原料供給体制が仕上がります。

本支店は、サステナブルな観点で地球に・人に・やさしく、かつ生産性を高めていける構想を叶えるべく主に次のことを実施しました。

まず設備面では、電力は再生可能エネルギーの使用を電力会社と契約、また太陽光パネルを一般品棟屋上に設置し、支店内電力の約30%を補完しました。

これ以外にも、支店内の外灯にはソーラーウインド街路灯（風力・太陽光）、ソーラー街路灯（太陽光）の設置等、小さなことですがより環境負荷の小さいものを採用しました。

実務面においては、支店内（倉庫・タンク置き場）の管理はハンディターミナルを使用し、貨物に貼付している二次元コードを読み取るかたちで入出庫管理を行いました。

人の目だけに頼らない入出荷管理により、誤出荷防止に努めています。

将来的には無線周波数識別のRFIDの採用も視野に入れ、更なる省力化を図ることで、人にやさしい作業環境の実現と生産性向上を目指していきます。

これ以外にも、ゲートシステムや入場予約システムを導入し、2024年問題でもクローズアップされる荷待ち時間を、よりスムーズな貨物受入により軽減を目指しています。事務所棟も、“社員モチベーション向上/採用活動への貢献/お客様への安心感”の提供をテーマに、グリーンを基調としたカフェスペースなどリラクスペースを創出すると共に、全体としてもコミュニケーション促進の場を意識した作りをしています。

熊本支店は、NRSアセット（倉庫・輸送・デポ）の集合体。且つ徹底した製品管理が求められるデリケート貨物が在庫の殆どを占めます。製造・人的・知的資本をフル活用した最新設備で九州（発、地球）の化学品物流に最適解を提供します。





## 社会：人財

## 社員が誇りと物心両面で幸せを感じる仕事

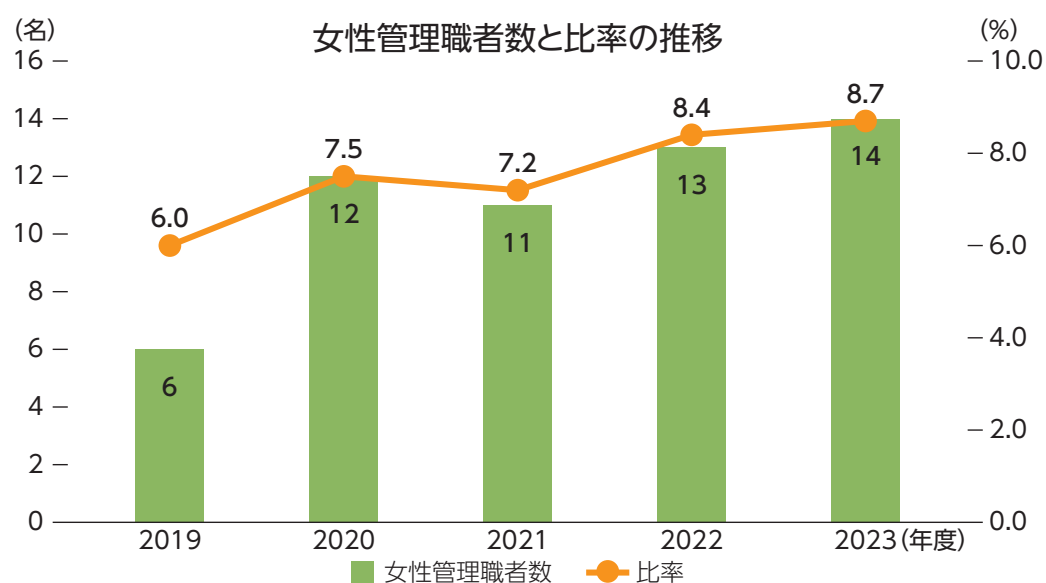
企業が持続的に発展するためには、「組織としての多様性」が不可欠であると考え、誰もが生き生きと働き活躍できる職場を目指し、多様性の尊重（ダイバーシティ）や働きやすく人間らしい仕事（ディーセントワーク）を維持しています。また、顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係の維持に努め、良き「企業市民」であるとともに海外諸国の文化慣習を尊重する良き「国際人」たることを目指します。

## ■ 多様性の尊重（ダイバーシティ）

## 女性の活躍

NRSグループは、厚生労働省が定める女性活躍推進企業認定「えるぼし認定」の最高位を獲得しています。当社では女性管理職比率の向上や継続就業の男女差軽減に向けた、キャリアアップ研修の実施、制度の整備等を通じて、男女ともに働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

	2021	2022	2023	
女性管理職比率	7.2%	8.4%	8.7%	毎年9月30日時点



## 女性特化の研修会

管理職手前・新任管理職の女性社員が、NPO法人J-Win\*の主催する研修に参加しています。業界や業種の枠を超えた約200名のメンバーとともに、ネットワーキング構築や相互研鑽の機会を通じて、リーダーとしての意識醸成、スキルアップに繋がっています。

\*特定非営利活動法人ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク：企業のダイバーシティ・マネジメントの促進と定着、女性リーダー育成を推進支援するNPO法人



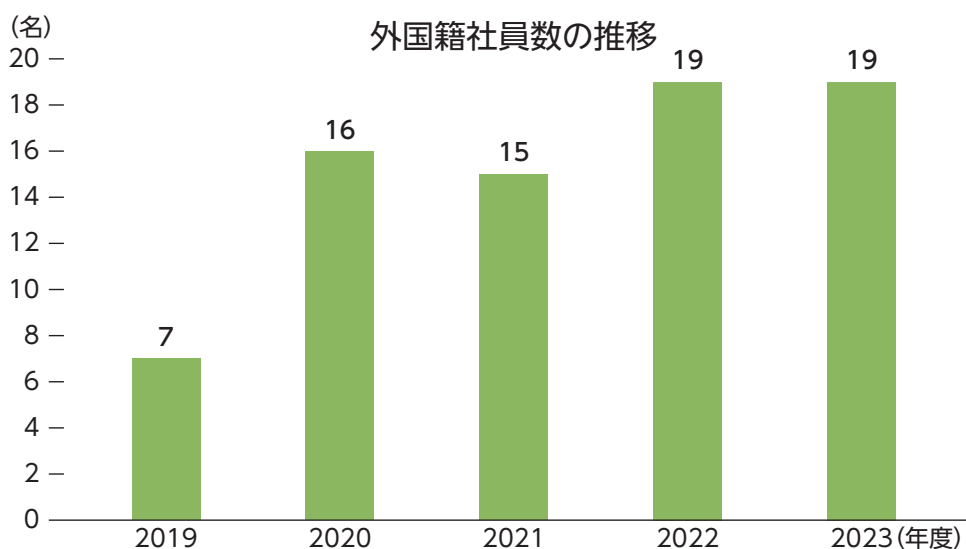
## シニアの活躍

「全社員が物心両面で豊かな人生を長く送れるよう、一人ひとりが生き活きと長く働くことのできる場を提供する」ため、2022年10月より社員の定年年齢を60歳から65歳に引き上げました。新たなグループ会社として、株式会社NRSバリュークリエイトを設立し、豊富な経験・知識・技能を有するシニア層がより一層活躍できる仕組み・環境を整えました。同社では業務量や勤務日数・時間などの調整が一定の範囲内で可能で、社員の柔軟な働き方へのニーズに対応、グループ内で唯一副業を認めています。現在、12名の社員が在籍し、一人ひとりの社員が「NRSグループの価値創出と向上に貢献する」ことを旨としながら、日々生き活きと活躍しています。

## 外国籍人財の採用とサポート

事業のグローバル化にともない、外国籍の人財を積極的に採用しています。2019年より台湾を中心とした就職採用面接を実施し、台湾の他にも、中国、韓国、ベトナム、フランスの19名の外国籍社員が活躍しています。

	2021	2022	2023	毎年9月末の在籍者数
外国籍人財の採用数	15名	19名	19名	



## 障がい者の活躍

「障害のある人もない人もともに働ける企業」であることを目標に、障がい者雇用にあたっています。障がい者の方も組織の一員としての実感を持ち、スキルを積みながら生き活きと活躍ができるよう支援し、安心して長く働けるよう努めています。また障がい者支援担当者には厚生労働省で定める「企業在籍型ジョブコーチ」や「障害者職業生活相談員」の資格取得推進を図っております。



## ■働きやすい職場づくり（ディーセントワーク）

### 働きやすい職場認証の取得

当社は、2021年に運転者職場環境良好度認定制度（働きやすい職場認証制度）で「1つ星認証」を取得したのに続き、2022年は「2つ星認証」となりました。  
今後もさらなる職場環境の改善に向け、行動してまいります。

### 安全衛生委員会

社員の労働安全および衛生に関する事項の審議・調査を本委員会ですべて毎月行っています。  
労働災害防止や健康障害防止対策から安全衛生管理者の職場巡視、安全品質部門による安全パトロール、安全・衛生・健康に関する研修企画の立案・実行を計画的に進めています。

### エンゲージメント調査

社員に対しエンゲージメント調査をアンケート方式で年に1回実施し、今年で2回目となりました。  
好意的な回答をしている割合は8割に達しています。自由記述欄ではコミュニケーションに関する要望が多数見受けられました。対会社、対上司、対他部署等、コロナ禍で在宅ワークが増えたことや各拠点の行き来が制限されていたこともあり、1on1や研修、交流会を通してコミュニケーションを様々な形でとる仕組みを実施していきます。

### 社員エンゲージメント調査の結果

	2022年	2023年
参加率	75%	81%
エンゲージメント指標	81.5%	81%

※エンゲージメント調査設問6問において、好意的な回答をしている社員の割合

### 子ども参観日の開催

本社従業員の子どもの対象とした「子ども参観日」を実施しました。「子ども参観日」は、従業員の子もたちが親の職場を訪問することで、家族の仕事への理解を深め、ワークライフバランスを推進するとともに、社内コミュニケーションの活性化を目的としています。従業員エンゲージメント向上に取り組むとともに、未来を担う子どもたちへ学びの場を提供する活動を続けてまいります。



▲NRSグループの事業説明



▲お父さん、お母さんの同僚と名刺交換

## 健康経営の推進

社員の心身の健康増進を目的に2021年度から「健康経営」を進めています。

1. 健康診断スケジュール短縮化・管理の簡素化
2. 産業看護師との契約
3. 健康診断オプションの選択肢・補助額増
4. 健康管理システムの導入

産業看護師は定期的に本社に訪問し、定期健診の受診管理や再検査の推奨業務の他、健康・メンタル相談を対面やオンラインで実施しています。

また、昨年度の健診・特定保健指導の受診率が高いことや保険事業に積極的に取り組んでいることから、石油製品販売健康保険組合より、健康推進優良事業所として金賞を受賞しました。



## 教育研修制度の充実

2021年10月から始まった中期経営計画「NRS 2024」では、「自己研鑽による社員のダイヤモンド化」を経営方針のひとつとし、人財の育成を最重要課題に位置付けています。グローバルに変化が激しく、より多様化する市場において事業を成長させ飛躍するために、人的資本をより強化し社員を成長させる教育、研修制度を導入しています。2023年度は、国内同様グローバルにも展開し、1人あたり10万円の教育研修予算をもとに、多くの社員が自己研鑽に励んでいます。また、従来の階層別だけではなく、テーマ別の選抜研修（海外赴任候補者研修、DX推進者研修、経営幹部候補者研修等）にも力を入れ、さらなる社員のやる気と能力アップを目指します。

### 2023年度教育研修の例

- |                   |                |               |
|-------------------|----------------|---------------|
| ■新入社員研修、現場見学会     | ■管理職研修         | ■自己啓発         |
| ■現場研修(新卒・キャリア採用)  | ■ライフプランセミナー    | ・語学講座(英語・中国語) |
| ■フォローアップ研修(1~5年目) | ■各種勉強会         | ・通信教育         |
| ■ビジネススキル研修        | ・各種危険物法規勉強会    |               |
| ・プレゼンテーション        | ・事故対策勉強会       |               |
| ・ITリテラシー          | ・AEO(保税・通関)勉強会 |               |
| ■海外赴任候補者研修        | ・輸出入勉強会        |               |



新入社員 現場見学会



海外赴任候補者研修



管理職研修



NRSグループは、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という理念のもと、幅広い社会貢献活動に取り組んでいます。

## ■ マッチング募金

2009年からスタートした、社員からの寄付金に会社から同額を加えて寄付を行うマッチング募金を継続しています。国境なき医師団日本・日本ユニセフ協会・交通遺児育英会・一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会・認定NPO法人カタリバの5団体に加え、2023年度は国連UNHCR協会・WWFジャパン・公益財団法人日本ナショナルトラスト協会の3団体を追加しました。さらに、冬に厳しい寒さを迎えるウクライナへ使い捨てカイロを送るプロジェクトへの参加や大地震で被災したトルコ・シリアへ支援金を寄付し、2023年度の寄付金総額は4,159,370円となりました。

## ■ フードロスの削減

4月に備蓄食品を買い替えるため、セカンドハーベスト・ジャパンへ食品を持ち込み寄贈しました。アルファ米やパンなど段ボール箱に入った食品を荷卸しし、寄贈個数は全99箱となりました。



## ■ 地域への貢献

本社および事業所では、地元の地域清掃活動に積極的に取り組んでいます。当社が所在する千代田区では年2回「千代田区一斉清掃の日」を定めており、当社もこの活動に参加しています。（区の社会福祉協議会が運営するボランティア活動への取り組みは、コロナケアの観点で参加見合わせ中です）

## ■ グローバル拠点の取り組みから

本年度もタイでの取り組みを紹介します。写真は、NRSロジスティクス タイが実施したCSR活動「国立公園の森林での防火帯作製と植樹」から



# ガバナンス

## 社会から信頼され持続的な成長ができる会社

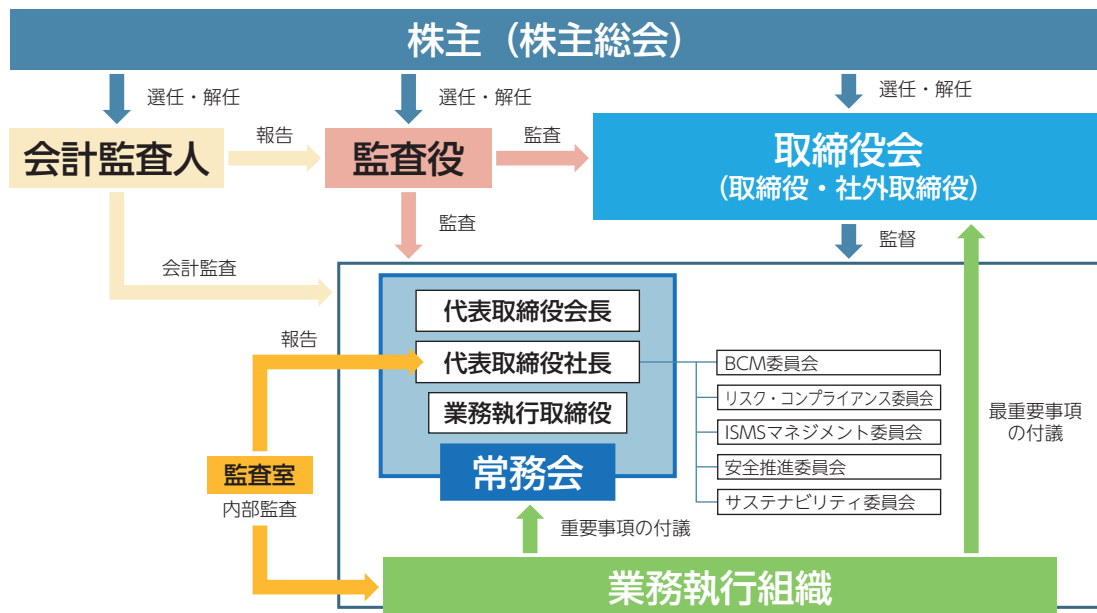
私たちが扱う化学品は、社会により豊かさや幸せを与えるものであり、その化学品産業の基幹をなすのが私たち物流事業です。物流業が産業の基幹をなしていることに誇りを持ち、社会的責任を果たします。

NRSグループの事業活動の基盤は「NRSグループ企業倫理綱領」です。「倫理に基づく行動」「法の遵守」「安全の重視」を基本に、主体性と自己責任に基づく良識ある公正な行動によりエクセレント・カンパニーとして広く社会から支持されることを目指します。

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方

倫理に基づく行動と法の遵守、安全品質を徹底します。そして私たちは多様な人格と個性を尊重し、顧客、取引先、従業員、株主を含むすべてのステークホルダーとの健全で良好な関係を築きます。これらを実現するため、健全でかつ透明、公正、迅速な意思決定を行う最適なコーポレートガバナンスの追求を続けます。

### コーポレートガバナンス体制図



### 取締役会

経営の意思決定機関であり、重要な業務執行、経営戦略や方針を決定します。取締役の業務執行の監督および内部統制システムの構築など健全な業務運営を担います。

### 常務会

迅速な業務執行を目的とし、取締役会決議事項以外について定期的に審議します。その内容は取締役会に報告します。



## 監査役

取締役や執行役員の業務執行を監査します。また、コンプライアンスや会計等で適正な経営がなされているかを監査します。

## 監査室

業務執行部門から独立した立場で、業務の合規性・効率性・経済性・有効性を検証および評価し、その結果を取締役会等に報告します。監査役の職務執行について、その指示に従い補助業務を行います。

## 内部統制・法務・リスク管理部

NRSグループの内部統制システムの構築と運用管理、および経営リスクに関する情報収集・分析ならびに対応への取り組みに関する管理全般を行います。

## リスクマネジメント

リスクを横断的に管理する社長直轄体制を敷いており、①2023年度より、コンプライアンスの適切な執行の監督と共にリスク管理も併せ議論・共有化する場としての「リスク・コンプライアンス委員会」、②事業計画に関する活動の方針や施策の審議決定を行う「BCM委員会」、③情報機器管理に関するISO27001認証を取得し、「ISMSマネジメント委員会」を設置しています。

## リスク・コンプライアンス委員会

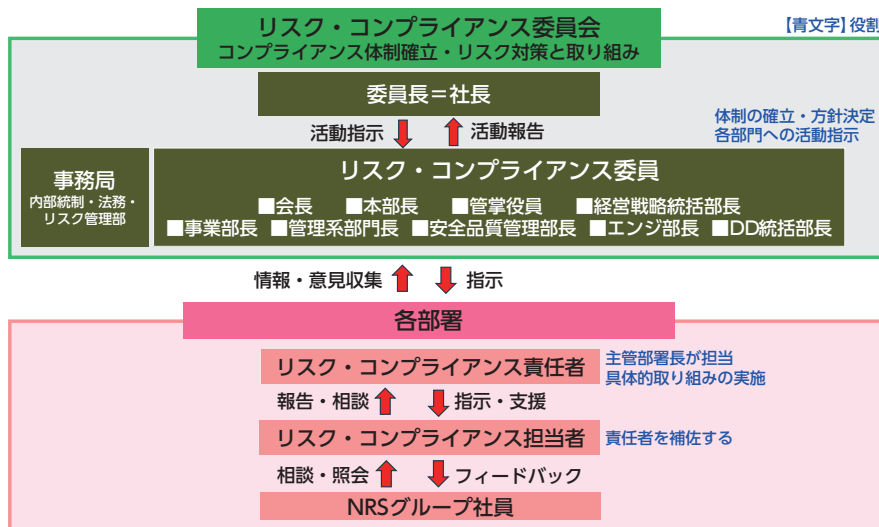
リスク・コンプライアンス委員会は、NRSグループにおける下記1-4の実施を目的に、コンプライアンス委員会に替わり新たに設置されました。

1. リスクとコンプライアンス意識向上の推進
2. コンプライアンス体制の確立と実践
3. グループ全体のリスク対策のための活動方針の決定
4. 各部門への活動指示ならびに活動状況の報告・確認

2023年度は、年間で2回開催、下記取り組みを行い、取締役会で報告をいたしました。

- ・全社が直面する主要リスクとその取り組み状況の共有化
- ・委員会が特定した「重大リスク」の対策検討結果の報告、議論
- ・カンントリーリスクの最新情報共有化と、リスク管理関係規程類の整備

## NRSグループ リスク・コンプライアンス委員会体制



## BCM委員会

危険物・化学製品・薬品等の輸送・保管、およびタンクコンテナ・リースで業界トップレベルのシェアを有するNRSグループは、大規模災害発生時や感染症のリスク下でも事業を早期に復旧し継続することが重大な社会的責任と考えています。社長を委員長としたBCM委員会の議論をもとに、事業所ごとの「事業継続計画（BCP）」を点検・見直すことで、継続的にサービス・製品を顧客に提供できる体制をとっています。

## 情報セキュリティ

2020年に情報機器管理に関するISO27001認証を取得。情報セキュリティ方針のもと、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）を確立し、情報セキュリティを維持するための活動を実践しています。2022年10月に情報セキュリティハンドブック第5版を発行し、社員に周知徹底を図っています。また、多要素認証によるアカウント管理、PCやサーバーなどの従来のエンドポイント対策に加え、2023年9月グローバルでゼロトラストツールの導入を完了、人・機械の両面での対策を講じています。また、2023年7月 NRSグループDX戦略を策定、セキュリティとリスク管理については、完全性、機密性、可用性の向上を原則に改善活動を実施しています。顧客の大切な情報を絶対に漏洩させない、高度な物流を支えるシステムを止めないという考えのもと、セキュリティレベルのさらなる向上に努めていきます。

## 緊急事態への対応

当社では緊急事態に備えて様々な訓練を行っております。海上災害防止センター様と合同で緊急事態が発生した際の動きについて実際に災害対策本部を設置して訓練しました。緊急時も事業継続の可否を速やかに把握でき、万が一継続不可の場合でもグループ内で連携して事業を復活させ、継続的にサービス・製品を顧客に提供できる体制を整えています。



## コンプライアンスの徹底

### 内部通報窓口

倫理綱領、法令、社内規程等に違反した行為、または、違反の疑いがある行為を早期に発見し是正を図るため、内部通報窓口を設置しています。

- ・内部通報窓口：国内社員に向け、社内および社外（弁護士事務所）に設置  
さらに、2023年4月1日より、海外社員のための社外内部通報窓口を設置
- ・通報・告発者の権利保護：公益通報者保護規程にて制定
- ・改正公益通報者保護法ガイドライン：準ずる

### 新輸出入管理体制による安全保障貿易管理の強化

国際社会が取り組む大量破壊兵器や関連貨物の不拡散という重要課題を会社として再認識し、安全保障貿易管理を強化するため、2021年11月より新体制で取り組んでいます。

1. 安全保障輸出管理規程により、組織体制、手続き、監査、教育、文書管理などを明確化しています。
2. 輸出承認手続きをシステム化（名称：楽々ワークフロー輸出管理）。輸入記録も含め、WEB上で文書ペーパーレス管理。
3. 新入社員向け勉強会の実施。定期的な国内全社員対象のWEB勉強会による意識向上に努めています。
4. 法令改正情報の入手と適時の伝達。今後は内部監査により、さらなる改善を図っていきます。

### アンケート調査

国内全社員を対象とした、監査室によるアンケート調査を実施し、NRSグループにおける内部統制の整備状況について、社員からの意見収集および必要な対応を行いました。

### 各種研修・eラーニング

社員のコンプライアンス意識向上を目的に、eラーニングを計2回、また階層別の社員研修を実施しました。





## 環境

NRSグループCO<sub>2</sub>排出量(単位：t-CO<sub>2</sub>)

	2021年度	2022年度	2023年度
Scope1+2	—	17,615	15,838

国内グループCO<sub>2</sub>排出量(単位：t-CO<sub>2</sub>)

	2021年度	2022年度	2023年度
Scope1+2	15,954	15,264	14,075
Scope1	9,867	9,812	9,417
Scope2	6,087	5,452	4,658

NRSエアロジスティクスは2022年度より集計  
2022年4月～9月は2021年度\_電気事業者別排出係数を用いています

## 産業廃棄物排出量

(単位：t)

	2020年	2021年	2022年
総排出量	937	1,017	826
一般産業廃棄物量	865	914	694
特別管理産業廃棄物量	72	103	131

対象範囲は国内グループ  
算出期間は、4月～3月

## ISO14001認証取得一覧

本社	横浜物流センター	周南ConTech
千葉物流センター	川崎ConTech	高石ケミポート
千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫	神戸ConTech	

全29拠点中8拠点で取得

## グリーン経営

千葉事業所	北九州事業所
大阪事業所	新潟事業所
川崎事業所	名古屋事業所
神戸事業所	群馬物流センター
群馬事業所	大阪物流センター



## 社会

## NRSグループ社員数 (海外、非正規社員含む)

(単位：名)

	2021年度	2022年度	2023年度
NRSグループ社員数	1,064	1,104	1,153

## 人財関連データ

		2021年度	2022年度	2023年度
社員数 (名)		742	766	828
	男性	593	604	653
	女性	149	162	175
平均年齢 (歳)		42	41	41
平均勤続年数 (年)		14	13	13
新卒採用数 (名)		23	25	36
	男性	13	17	16
	女性	10	8	20
中途採用数 (名)		21	25	22
	男性	14	20	18
	女性	7	5	4
離職者数*1 (名)		21	24	31
女性管理職比率 (%)		7.2	8.4	8.7
外国籍社員 在籍者数 (名)		15	19	19
障がい者雇用率*2 (%)		1.86	1.94	2.07
有給休暇 平均取得日数*3 (日)		8.1	9	10
育児休業取得率 (%)		25	38	46
	男性	0	17	22
	女性	100	100	100
育児休業復職率 (%)		100	100	100

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

海外と国内非正規社員は含みません

\*1 定年者を除く \*2 対象範囲はNRSのみ \*3 算出期間は4月-3月 夏季休暇 (3日分) 等特別有給休暇日は除く

## 社会貢献活動支出額 (マッチング募金含む)

	2022年度	2023年度
社会貢献活動支出額	4,746,000円	4,159,370円

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

## 労働災害指数 度数率

	2021年度	2022年度	2023年度
労働災害指数 度数率	1.22	1.69	0.55

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

2022年平均度数率 (厚生労働省 労働災害動向調査より)

運輸業・郵便業 : 4.06 全産業平均 : 2.06

## 危険物取扱者 乙種4類 (甲種含む) 取得率

	2022年度	2023年度
NRS	87%	87%
NRS物流	100%	100%

## ISO9001認証 取得一覧

本社	中部物流センター	川崎事業所
千葉物流センター	中部物流センター 東海倉庫	大阪事業所
千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫	九州物流センター	高石ケミポート
横浜物流センター	川崎ConTech	名古屋ケミポート
大阪物流センター	神戸ConTech	東京液体化成品センター 川崎営業所
群馬物流センター	周南ConTech	東京液体化成品センター 名古屋営業所

全29拠点中18拠点で取得



## ガバナンス

## 経営体制

(単位：名)

	2021年度	2022年度	2023年度
取締役	9	8	8
(うち女性)	(1)	(1)	(1)
(うち社外取締役)	(1)	(1)	(1)
監査役	2	2	2

対象範囲はNRS

## 内部通報件数

(単位：件)

	2021年度	2022年度	2023年度
内部通報件数	4	5	13

